

みやこ町図書館だより 2011冬

ふくろうの森通信

発行 2011年1月1日 第11号



新しい年を迎えまして

今年こそはと思いながら、やり残したことが多くあるような気がしつつ、新しい年を迎えました。

皆様に少しでも多く本を提供できれば、希望される事案に即する資料を探すお手伝いできればと思っています。今年もその事を目標の一つとして努力してまいります。

皆様のお心遣いと励ましに支えられながら、よりよい図書館を目指せるようにと、今年も張り切っております。



新年あけまして
おめでとーございませう



今年も変わらぬぞうぞう

よろしくお願ひいたします。

平成二十三年一月

みやこ町図書館職員一同

昨年の秋に『読書週間』の催しを行いました

～村田喜代子 講演会～

「ぐっぐっ…、小説が煮えてくる」

～『ドンナ・マサヨの悪魔』をめぐって～

10月22日、「サン・グレートみやこ」で芥川賞作家の村田喜代子さんをお招きして講演会を開きました。アットホームな雰囲気の中で楽しい会になりました。



※今号の特集「シリーズ作家探訪」で詳しく取りあげています。



「ブック・リサイクル」

10月29日から11月24日まで中央館・犀川館・勝山館の3館で行いました。

図書館での役目を終えた図書や雑誌（3館合わせて6,975冊）を利用者の方にお持ち帰りいただきました。

ご協力大変ありがとうございました。



シリーズ「作家探訪」第1回

村田 喜代子

【作家紹介】

昭和20年、現在の北九州市八幡東区で生まれる。両親の離婚後に生まれたので、祖父母の実子として出生届けが提出される。

中学一年の時、時代劇映画のシナリオを目にして、シナリオライターを志す。中学卒業と同時に鉄工所に勤め出す。その頃から結婚する22歳までの数年間がシナリオ作業時代となり、芥川賞候補となった『熱愛』はこの頃の修行成果となる。この作品はシーン・ナンバーを付けて48のショットから構成されている。その後『盟友』も芥川賞候補となり昭和43年『文学界』5月号に発表された『鍋の中』で第96回芥川賞を受賞する。祖母との関係、その死がモチーフになっていると思われる。

その後多くの作品を発表し、数々の賞を受賞した。最近では『故郷のわが家』で第63回野間文芸賞を11月に受賞。現在、福岡県中間市に在住し、執筆活動のかたわら、梅光学院大学の客員教授として活躍されている。



サン・グレートみやこ
で講演される
村田喜代子先生



【作品】

『故郷のわが家』 新潮社（2010刊）

親を看取り、子育てを終え、周りに亡くなっていく人もいる。そんな年齢になった主人公笑子さんが、家を処分するために故郷に戻る。片づけをしながら過去を振り返り、過ぎ去る年月を感じながら、戻れない日々を思いを馳せる。ひとつひとつの出来事に、故郷の喪失感を感じる気がする。

昨年11月に第63回野間文芸賞を受賞。



『鍋の中』 文芸春秋（1987刊）



夏休みに田舎の祖母の家に集まった親戚の子どもたちと祖母の生活の中で、思春期の子どもたちは、色々な事を経験し考える。祖母が話す昔話や祖先の話聞きながら自分たちのルーツを考え、普通の夏休みでは得られない感動と感情を覚える。

第96回芥川賞を受賞。

【講演会】

昨秋の10月24日読書週間関連事業として、サン・グレートみやこ研修室で講演を開催。とても近い距離で参加者の目を見ながら熱心に話された。時折ユーモアあるお話もあり会場に笑いがおこった。ゆったりと、心地良い時間が過ぎていった。休憩時間には自ら参加者の輪の中に入られ、お話をされているのも印象的だった。「作品を書き上げた早朝、階段をおりて台所に行き、ガス釜のスイッチを入れ、お味噌汁を作る。」その姿が目には浮かび、主婦としての日常が見えたように、妙に感動をしてしまったと同時に「もっとこの方の本を読みたい」とワクワクしてしまった。講演の直後に野間文芸賞受賞というニュースに嬉しく、なぜか誇らしく感じたりもした。

※ 参考文献

「福岡と芥川賞直木賞 その作家と作品」福岡市総合図書館 文学・文書課文学係

としょかん司書お勧め チェック本



冬の本



【一般向け】

『猫たちの冬』

ヴォルフガンク・ホールバイン、ハイケ・ホールバイン（著）たかお まゆみ（訳）ポプラ社
おばあさんが入院してから、少年ユスティンのまわりでは不思議な出来事が次々起きて…。小さな町は雪で閉ざされ、「猫たちの冬」が来たことを悟ったユスティンは懸命に「闇」との闘いに挑む。ミステリアス・ファンタジー。
(2008 刊)



【一般向け】

『ウー・ウエンの体をあたためるレシピ』



ウー ウエン（著）家の光協会
しょうが、ねぎ、赤唐辛子、黒糖などを使った、野菜のおかずから、雑穀・発芽玄米を使った主食、おやつまで、体のあたたまるレシピの紹介です。寒い日に身体の芯からポカポカになりませんか？（2010 刊）



【一般向け】

『雪のひとひら』

ポール・ギャリコ（著）矢川 澄子（訳）新潮社
冬、空から舞い落ちてくる雪、雪、雪…でもそのひとひらは孤独で、自分の運命を切り開き始めたばかりです。この先、どんなできごとが待ち受けているのでしょうか。
ひとひらの雪にたとえられ、美しいことばで語られる物語です。（2001 刊）



【児童向け】

『12のつきのおくりもの』

内田 莉沙子（再話）丸木 俊（画）福音館書店
昔あるところに、夫を亡くしてふたりの娘とくらしているやもめがいました。やもめは実の娘のホレーナばかり可愛がり、継子のマルーシカにはつらくあたりました。ある寒い冬の日、マルーシカはすみれを摘んでくるよう言われ、家を追い出されてしまいます…。スロバキアに伝わる昔話です。（2006 刊）



（質問） 還暦の意味といわれを知りたい。また、他の年祝いと還暦とでは、どういう違いがあるのか。

（回答）

暦をあらわす干支は、「子・丑・寅…」の十二支と「甲・乙・丙・丁…」の十干を組合せて六十通りあり、六十年で暦が元に還ることから、六十歳を還暦として祝うようになった。暦の上で二度目の人生のはじまりということで、赤ちゃん用の産着であり、また魔除けの意味のある赤のちゃんちゃんこを着るようになった。還暦以外の年祝いは「数字のきりがよい、あるいは数字の形がその漢字に似ている」という理由でつけられたもので、還暦が暦を由来としているのとは、意味合いが違っている。

『図解日本のしきたりがよくわかる本』（PHP研究所）

『冠婚葬祭のなぜ？』（ニューミレニウムネットワーク）

『和のしきたり日本の暦と年中行事』（日本文芸社）





1月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

※ 1月1日(土)から1月4日(火)まで
休館します。

2月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28					

3月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

開館時間 : 10時から18時まで
休館日 : 毎週月曜日
毎月最終木曜日
(木曜日が祝日の場合翌日)

お問い合わせ

- みやこ町中央図書館
みやこ町豊津 1122-12 ☎33-1040
- みやこ町犀川図書館
みやこ町犀川古川 50 ☎42-3330
- みやこ町勝山図書館
みやこ町勝山黒田 86-1 ☎32-3455

ホームページアドレス

<http://www.town.miyako.lg.jp/library/top.jsp>

本のある風景

図書館のおはなし会

みやこ町図書館では、読書ボランティアの皆さんと図書館職員が交代でおはなし会を行っています。絵本の読み聞かせなどを通じて楽しいおはなしを紹介しています。保護者の方の参加も大歓迎ですので、お子さんと一緒におはなしを楽しんでみてください。

<土曜日のおはなし会> 4才くらいから

中央図書館 毎週土曜日 14:30~
犀川図書館 毎月第2・第4土曜日 14:00~
勝山図書館 毎週土曜日 14:30~

*いずれも30分程度のおはなし会です

<ひよこのおはなし会> 1才~3才くらい

勝山図書館 毎月第1・第3金曜日 10:30~



どのおはなし会も
事前の申込みはいり
ません。



中央図書館のおはなし会



もこもこのクリスマスおはなし会
(勝山図書館)



犀川図書館のおはなし会



編集後記
新年、おめでとうござ
います。なぜか元旦の朝
は、きりつとしていて、
さわやかで、今年もきつ
とよいことがいっぱいあ
りそうな気がします。
今回、特集で紹介する
のは、秋に実施した講演
会でお話しをされた作
家、村田喜代子さんです。
これを機会に村田喜代子
さんの作品を読んでみま
しょう。
(有)

